

## 世界獣医学協会と世界医師会による One Health に関する国際会議

平成27年5月21日(木)～22日(金)、スペイン・マドリードのクリスタル・ビジネスパーク第4ビルで世界獣医学協会(WVA)と世界医師会(WMA)によるOne Healthに関する国際会議が開催され、日本獣医師会からは藏内勇夫会長と酒井健夫副会長が出席し、藏内会長は、「東日本大震災からの復興と期待、獣医師の役割とその展望」と題する講演を行った。

本国際会議には、昨年秋に開催されたアジア獣医師会連合(FAVA)代表者会議及び世界獣医学協会(WVA)総会の席でWVAとWMAによる最初の連携会議が企画され、それが実現されたものである。会議には40カ国から330名の出席者があり、日本からは藏内会長をはじめとする日本獣医師会関係者と横倉会長をはじめとする日本医師会関係者が参加し、藏内会長と横倉会長が講演した(図1)。

会議中の挙手による調査で確認したところ、出席者の約2/3は獣医師、1/3は医師であった。

5月21日(木)9:30から開催された開会式では、モレノサンチェス スペイン保健省長官、カールソン WVA会長、ドゥー WMA会長、ディエス スペイン獣医師会会長、サンディン スペイン医師会会長、デボロー

One Healthに関するFAO/OIE/WHO代表から挨拶が行われた。

同日午前中は、ローラ・カーン氏及びリサ・コンティ氏による基調講演「One Healthの概念 大局的見地から見たOne Health導入に関するセッション」が開催され、午後には、人と動物の共通感染症に関するセッションが開催された。

翌5月22日、午前には薬剤耐性に関するセッションが開催され、午後14:30～16:30、サンディン スペイン医師会会長が座長を務めて「その他のOne Healthの問題」のセッションが開催された。

そこで取り上げられた、「自然災害のマネジメント、備えと医師・獣医師の連携」に関して、まず「日本における2011年大震災と福島原発事故、経験と復興に向けての医師と獣医師の連携」と題する横倉義武 日本医師会会長の講演が行われ、次いで、藏内勇夫 日本獣医師会会長の講演「東日本大震災からの復興と期待、獣医師の役割とその展望」が行われた(図2)。講演の要旨は、以下のとおりである。

2011年3月11日に三陸沖で発生したマグニチュード9.0、最大震度7の巨大地震と、それに伴う津波による



図1 日本獣医師会 藏内勇夫会長(右)と  
日本医師会 横倉義武会長, 会場にて



図2 藏内会長の講演



図3 質疑に応える藏内会長

東日本大震災で、2万人を超す死者と行方不明者が生じた。さらに、その津波によって東京電力福島第一原子力発電所で事故も起きた。4年が経過した現在、被災地での復興は確実に進んできたが、いまだ23万人が避難生活を続けている。この大震災では、多くの家庭飼育動物や家畜も死亡し、行方不明になった。震災直後、日本獣医師会（JVMA）は、被災動物の救護や保護、傷病動物の治療、避難所や仮設住宅で暮らす動物の飼い主への飼育相談、動物救護活動を行う獣医師への支援、動物救護シェルターの運営に協力してきた。特に、JVMAと動物愛護の関連団体が協力して運営に当たってきた「緊急災害時動物救援本部」が、大いに機能を発揮した。JVMAは、国民が求める生活基盤の確保や生活向上に向けて、動物の診療と疾病予防の指導、食品や環境の衛生監視と安全性の確保、人と動物の共通感染症の予防に取り組んでいる。またJVMAは、今後も発生する可能性がある大震災への総合的対策の推進や、2012年に世界医師会と世界獣医学協会が協力に関する覚書を締結したことを契機に、2013年11月20日に日本医師会（JMA）と「One World, One Health」の理念を実現するため、学術協定を締結した。さらにJVMA会員の22の地方獣医師会も、地方医師会と同様な趣旨で学術協定を結んだ。このように、JVMAはJMAと協力し、東日本大震災からの復興、安全で安心な社会の構築と発展のため、全力で取り組んでいる。



図4 大使公邸にて、右から9番目が藏内会長、13番目が越川大使、14番目が横倉会長

講演の最後に、桜と富士を背景に“Thank you very much for your kind attention”と呼びかけるスライドが映写されると、会場からはスタンディングオベーションが起こった。その後の質疑応答で、放射能汚染はどのような状況か、汚染の除去は、医師会と獣医師会の連携が円滑に進んでいる理由は等の質問があり、藏内会長と横倉会長が丁寧にしかも明瞭に対応された（図3）。セッション終了後、両会長は今回の会議に成果を喜び、固い握手を交わした。

なお横倉日本医師会会長は、質疑応答の中で、今後も日本獣医師会と連携を強化して、One Healthを実践すると力強く発言をされていたのが印象的であった。

同日夕、会議の終了後に日本獣医師会、日本医師会からの参加者は、在スペイン日本大使公邸で開催された大使招宴に招かれ、越川在スペイン日本国特命全権大使から、今回の会議における成果を祝福されて労をねぎらわれた（図4）。

今後も機会があれば日本獣医師会から国際会議や国際シンポジウムの席で積極的に発言し、メッセージを伝えて、日本獣医師会の活動をアピールすることが重要であると考えます。